



# 安行植木の歴史



年号	できごと
1618 (元和4)	<b>安行の植木の起源は380年前</b> 関東郡代第3代伊奈半十郎忠治が、赤山の地で利水や開墾に努める一方、植木や花の栽培を奨励し、安行植木の始まりとされる。(安行城祉)
1652 ┆ 1655 (承応)	<b>安行植木の祖・吉田権之丞</b> 安行村の吉田権之丞(屋号「花屋」)が切り花植木を作り、江戸に売り始め盛んになったとも言われ、安行植木の祖とされる。(墓は金剛寺)
1657 (元和4)	<b>振袖火事を契機に大当たり</b> 江戸を焦土と化した「振り袖火事」の後、茅やワラをはじめ、花木や植木を大量に出荷し、これを契機に、植木等の栽培が盛んになった。
1768 (明和) ┆ 1780 (安永)	<b>「赤山の枝物」「赤山もの」</b> 赤山在住の岩崎太郎兵衛が、ヤナギ、サカキ、イブキ、マサキ、マキなどの枝を切り、江戸へ売り出した。明治期に促成栽培の技術が確立され「赤山の枝物」としての地位を確立した。
1851 (嘉永) ┆ 1863 (文久)	<b>安行の苗木等を各地へ販売</b> 当時の植木売上台帳では、チャボヒバ、マキ、マツ、ウメ、サクラ、カイドウ等の苗木が、今の足立区・三郷市・宇都宮市等に出荷された。
1867 頃 (幕末) ┆ (明治)	<b>幕末の頃、植木栽培農家は十数戸～数十戸</b> 安行の植木は、江戸時代に主要生産地であった豊島区巢鴨・駒込、文京区染井、北区田端等の後方供給基地の性格を有していた。
1889 (明治元) ┆ 1941 (昭和16)	<b>生産・販売組織の整備が発展の契機</b> 「大日本草木植木植物原産組合(1889)」、「安行草木原産会社(1891)」、「有限責任・安行苗木販売組合(1907)」、「山の神の会(1908)」、昭和に入ると「埼玉花卉園芸組合」、「赤山埼玉花卉生産組合」、「関東生花販売業組合連合会」などの組合が、植木・苗木などの栽培・販売業者で設立された。
1905 (明治38)	<b>青酸ガス薫蒸室設置</b> 埼玉県が全国で始めて安行村に青酸ガス薫蒸室を設置。その後神根、戸塚村にも設置された。
1930 (昭和5) 頃	<b>本邦最大の植木生産地に</b> 安行地区を中心に、栽培戸数千数百戸、面積にして300haに達した。
1939 (昭和14) ┆ 1945 (昭和20)	<b>第2次世界大戦により壊滅状態に</b> 作付統制により植木圃場は、陸稲・麦・甘藷などの畑に転換を余儀なくされ、8軒の農家に委託された母樹園5haを残すだけになった。
1948 (昭和23)	<b>せり再開</b> 安行小学校の校庭で、植木のせりが復活。植木等も徐々に生産されるようになった。
1950 (昭和25) 頃	<b>植木生産の本格的再開</b> 朝鮮戦争の特需景気と相まって、需要が増大し植木の生産が本格的に再開された。

年号	できごと
1953 (昭和28)	<b>県の植物見本園開園</b> 「埼玉県植物見本園」(現在の植物振興センター)が開園し、植木産業の振興、生産技術の向上、環境緑化の推進等の指導にあたった。
1960 (昭和35) ┆ 1973 (昭和48)	<b>未曾有の緑化ブーム到来</b> 高度経済成長の波に乗り、幹線道路・公園・工業団地等の環境緑化樹木、個人住宅の作庭用樹木等の需要が飛躍的に拡大した。
1960 (昭和35) ┆	<b>市外・県外に圃場を拡大</b> 圃場の不足を補うため、大宮・浦和・岩槻、茨城県、千葉県等に土地購入・借地をし、また委託・契約栽培などを行い、栽培場所を拡大した。
1960 (昭和35) ┆	<b>研修生の導入</b> 労働力の不足を補うため、また伝統的植木生産と造園等の技術習得のために、主に農業高校の新卒で全国から多くの研修生が集まってきた。
1967 (昭和42) ┆	<b>グリーンセンター開園</b> グリーンセンター川口市立花木植物園(現・グリーンセンター)が、市民の憩いの場・レクリエーション施設として開園した。
1973 (昭和48)	<b>植物取引センター設立</b> 川口市営安行植物取引・造園センター(現・植物取引センター)が、セリを通して植木等の流通の円滑化、取引の適正化、特産農業の振興等を図るために設立された。
1973 (昭和48) ┆	<b>厳しい時代に・低成長期に</b> オイルショック以降の景気低迷で、植木産業の後退が続いている。特にマツ・マキ等の仕立物の減少が著しく、価格も低落した。
1975 (昭和50)	<b>植木まつり開催</b> 10月に第1回植木まつりを開催。以後春と秋、年2回開催している。
1982 (昭和57)	<b>フロリアードに出展</b> 花の万博・フロリアード'82(国際園芸博覧会)がオランダ・アムステルダムで開催され、日本を代表して川口市から植木5千本、苗木、盆栽等を出展し、日本庭園が最高賞を受賞。安行の名を世界に知らしめた。(1992年にも出展)
1985 (昭和60)	<b>グリーンフェスティバル開催</b> 市民の緑化意識の高揚等を目的に、第1回グリーンフェスティバルが開催された。
1987 (昭和62)	<b>全国緑化フェア開催</b> 緑の国体・第5回全国緑化フェアが埼玉県で開催され、川口市がサテライト会場となった。
1996 (平成8)	<b>川口緑化センター・樹里安開館</b> 緑化産業の総合拠点として、川口緑化センターが開館。同時に道の駅「川口・あんぎょう」もオープンした。